

## 平成23年度 事業報告書（概要）

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

社会福祉法人 そよかぜ

本年度は、東日本大震災の影響により、特に年度の前半は変則的な事業展開を強いられた一年でありました。計画停電や自動車産業をはじめとする企業活動への深刻な影響は、そよかぜの事業にもおよび、宿泊訓練施設つくしの家の一時閉所、福祉作業所スマイル工房のパン製造作業の一時中止、福祉作業所ひばり園の開所も計画停電の合間を縫って行うなど、少なからぬ影響を受けましたが、終わってみれば何とか平年並みもしくはそれ以上の事業成果を確保することができました。これは、不安定な事業実施状況にもかかわらず、普段と同様に落ち着いて活動に取り組んだ利用者及び職員、さらには地域の皆様をはじめ、保護者、協力企業、行政当局及び関係諸機関のご理解とご支援によるものであります。

各事業の実施状況につきましては、概略、次のようになりました。

- ①前年度不振だった福祉作業所ひばり園就労移行支援事業が年度当初から5名の利用者でスタートし、1名が企業就労につながり、新たな入所者もあり年度末は6名の満定員で終わることができました。企業実習や就労準備訓練、作業訓練など年度を通して活発な活動ができました。
- ②福祉作業所ひばり園の就労継続支援B型事業では新しい取り組みとして、昨年度までは収益事業の枠組みで行っていた「リサイクルショップくれよん」が、福祉作業所ひばり園就労継続支援B型事業の「出張所」として4月5日にスタートしました。これにより、くれよんで働く利用者数は増え、お店の目的も「販売収益」から「利用者支援」へと様変わりしました。また、福祉作業所ひばり園の授産活動にご協力いただいている（株）やまびこ様のご厚意により、福祉作業所ひばり園初の「施設外就労」（やまびこ様事業所内でひばり園の授産活動を行う）が6月に実現しました。これら新規事業は、当初の予想を超えて順調に推移しました。
- ③福祉作業所スマイル工房は、年度を通して定員オーバーの状態が続き、利用待機者が発生するという課題を残しましたが、活動は順調に推移することができました。
- ④グループホームほほえみ館は、1名の定員割れを3月に一年ぶりに解消することができましたが、事業収支は大きくマイナスとなりました。
- ⑤宿泊訓練施設つくしの家は、前年度に利用者の多くがケアホームに移行したことを受け、事業の実施状況はやや低調に推移しました。ただ、ひばり園の利用者が新規にサービス利用を始めるなど明るい兆しもありました。
- ⑥就労支援センター・エールは、既就労者の定着支援ニーズの増加が顕著で、これに伴う業務量の増大に対応できる体制整備が課題となりました。
- ⑦唯一の収益事業となった資源回収事業も前年度並みに推移することができました。